

1. 実況上の着目点

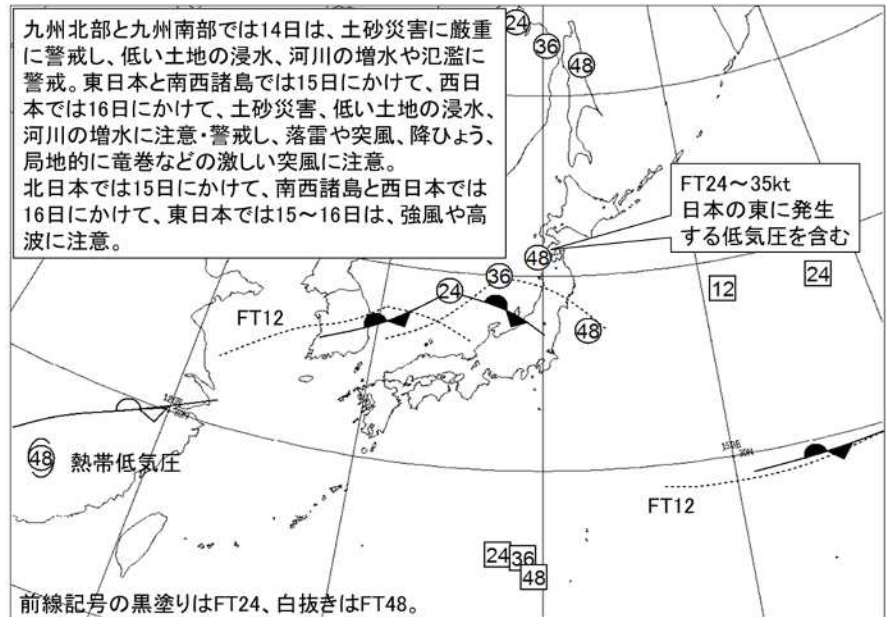
① 500hPa 5820～5880mの強風軸に対応する前線が、東シナ海から西日本、日本の南を通り、日本の東にのびている。華中付近の熱帯低気圧は不明瞭化したが、前線に向かって熱帯起源の下層暖湿気(13日21時の名瀬の高層観測：925hPa θ_e 361K)が流れ込み、大気の状態が不安定。前線近傍の対馬海峡付近では、激しい雨を解析し、西日本では雷を検知。

② 低気圧が、中国東北区を東北東進。

③ 高気圧が、日本の東を東へ移動。

①の前線や②の低気圧と高気圧との間で気圧の傾きが大きく、やや強い風や強い雨が吹き、波が高くしている所がある。

④ 台風第1号がトンキン湾をゆっくり北上。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の前線は、日本の南では次第に不明瞭化するが、東シナ海～朝鮮半島～日本海にのびて、14日夜までに、前線上の日本海西部に低気圧が発生して東北東進する。この低気圧は、15日夜にかけて津軽海峡付近へ進み、その後は不明瞭化するが、別の低気圧が15日夜までに日本の東に発生して北東進する。前線や低気圧に向かって熱帯起源の下層暖湿気(500m高度で θ_e 354K以上)が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となって、雷を伴い非常に激しい雨の降る所がある。また、これまでの大雨の影響で地盤の緩んだ所があり、少ない雨量でも土砂災害の危険度が高くなる可能性がある。九州北部と九州南部では14日は、土砂災害に厳重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。東日本と南西諸島では15日にかけて、西日本では16日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。

② 1項②の低気圧は、14日夜にかけてアムール川下流付近へ進む。

③ 2項①②の前線や低気圧と1項③の高気圧との間で気圧の傾きが大きくなるため、強い風が吹き、波が高くなり、しける所がある。北日本では15日にかけて、南西諸島と西日本では16日にかけて、東日本では15～16日は、強風や高波に注意。

④ 1項④の台風第1号は、15日夜までに華南へ進んで熱帯低気圧化し、その後は温帯低気圧に変わる。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(06時から24時間)：四国200、九州北部・九州南部180、近畿・東海150、関東甲信・北陸120、中国100mm。② 波浪(明日まで)：九州北部4、その他広い範囲で3m。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。東～西日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無

「大雨に関する全般気象情報」を、5時頃に発表予定。